



2025年3月期 決算説明資料

2025年5月14日

東証スタンダード **5304**

SECカーボン株式会社

目次

- 01. 会社概要
- 02. 2025/3期 決算概要
- 03. 2026/3期 決算見通し
- 04. 事業環境の変化と経営課題
- 05. APPENDIX

会社概要

01.

会社名	SECカーボン株式会社 (SEC CARBON, LIMITED)
本社所在地	兵庫県尼崎市潮江1-2-6 JRE尼崎フロントビル6階
設立	1934年10月23日
代表者	中島 耕
資本金	59億円 (2025年3月31日現在)

役員	代表取締役会長	大谷 民明
	代表取締役社長	中島 耕
	取締役	長谷川 和重
	取締役	田畑 洋
	取締役	岩井 清一
	社外取締役	大谷 壽一
	社外取締役	森 千春
	常勤監査役	井上 雅文
	常勤監査役	森下 宏也
	社外監査役	岡 和彦
	社外監査役	片岡 万枝

事業内容		
アルミニウム製錬用カソードブロック、人造黒鉛電極、特殊炭素製品、ファインパウダー及びその他炭素製品の製造販売		
売上高 311億円 (2025/3期)	総資産 813億円 (2025/3期)	従業員数 273名 (2025/3期)
事業所		
本社・京都工場・岡山工場・東京事務所・名古屋営業所		
社名の由来		
設立時の社名「昭和電極(株) (SHOWA ELECTRODE Co.)」の頭文字を取って「SECカーボン」		
連結子会社		
東邦カーボン		

高機能カーボンにおける世界のトッププレイヤー

アルミ製錬用カソード
世界シェア

40%

(当社推定*：2025/3期)

営業利益率

21.9%

(2025/3期)

ROE

7.8%

(2025/3期)

自己資本比率

90.7%

(2025/3期)

*中国除く黒鉛化カソードブロック市場

製品		用途	主要顧客
アルミニウム製錬用 カソードブロック (SK-B®)		● アルミニウム製錬工場の電解炉において、アルミナを電気分解する際のカソード(陰極)として使用される	海外アルミ製錬企業。 全量が輸出され、 中近東だけで4割弱を占める
人造黒鉛電極		● 電気を用いて鉄スクラップを溶解し、建設現場で使われるH形鋼や棒鋼などを生産する製鋼用の黒鉛電極	電炉メーカー 国内企業向けが7割以上
特殊炭素製品		● 基幹産業から先端分野まで、耐熱性、電気伝導性、耐食性など、カーボンの特性を活かした工業部材として使用される	非鉄金属メーカー 工業炉メーカー等
ファインパウダー (高純度黒鉛粉末)		● ブラシ用、シール材用、ブレーキ材用、リチウムイオン二次電池関係などの部材として使用される	自動車関連メーカー 家電関連メーカー等

*詳しくは、当社ホームページ <https://sec-carbon.com> へ

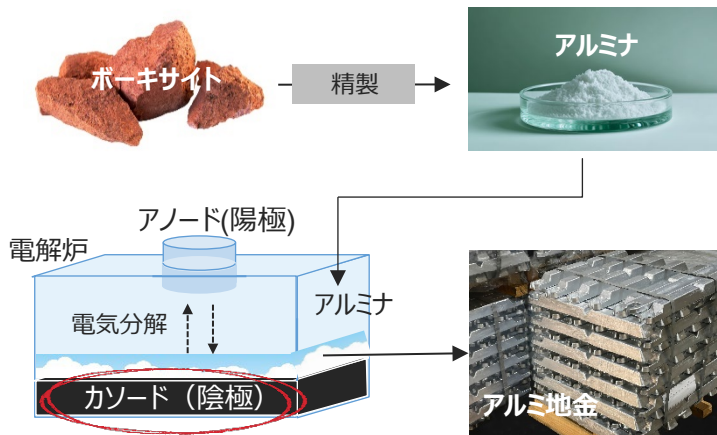
概要

アルミニウム製錬用
カソードブロック
SK-B®



● 用途

- アルミ製錬工程におけるアルミナ電気分解の際のカソード（陰極）として必要不可欠な材料



特徴

- ① **黒鉛化された高品質カソードブロックのパイオニア**
 - ✓ 1970年、世界で初めてカソードブロック全体の黒鉛化を実現
 - ✓ 現在は当社製品のような黒鉛化ブロックと従来品である非黒鉛ブロックの2製品が併存
- ② **世界シェア約40%***
 - *中国除く黒鉛化カソードブロック市場における当社推定値
- ③ **従来品比で使用電力（温室効果ガス）削減に貢献**
 - ✓ 非黒鉛から黒鉛化カソードブロックへの転換で、

3.4%

の電力使用量削減効果

- ④ **100%輸出**
 - ✓ アルミ製錬企業は日本に存在せず

人造黒鉛電極

● 充実した販売ネットワーク

当社の黒鉛電極は、世界のあらゆる国々で使用されており、グローバルな販売ネットワークにより、世界中に安定した製品提供を実現



特殊炭素製品

- 溶融塩電解・水溶液電解、冶金・金属精錬、等で活用

海外出荷実績

20か国以上

押出特炭生産能力

5,000トン以上/年

ニーズ対応力

オーダーメイド
大型・特殊加工
国内一貫生産による
安定品質

ファインパウダー

- 需要家の用途に応じて選べるよう豊富なシリーズとサイズ
- 業界最先端を誇る超高純度5ナイン（99.999%）を達成

取引実績

800社以上

黒鉛粉末の
パイオニア

Since 1986年

ラインナップ

品揃え30種類以上

2025/3期 決算概要

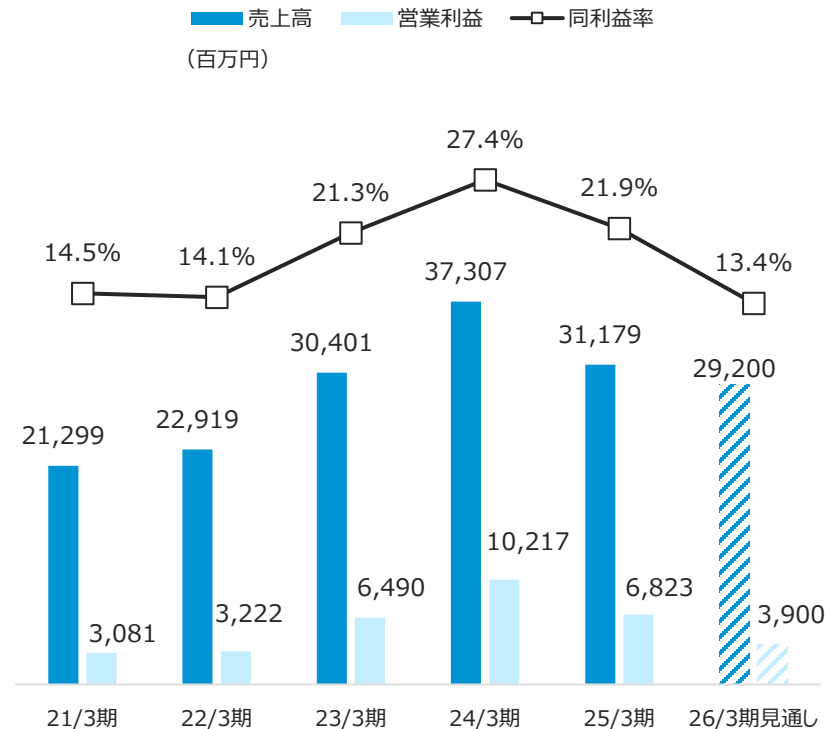
02.

● 2025/3期：取引先在庫調整により減収減益

- ✓ 16%減収、33%営業減益。営業利益率は5.5pp低下。従来想定比でも大幅未達。
- ✓ 円安の追い風はあったが、取引先在庫調整の影響から数量・価格ともに伸び悩み

● 2026/3期見通し：環境厳しいが、下期回復へ

- ✓ 6%減収、43%営業減益を想定。為替前提は前期実績比で約13円円高の140円/USD
- ✓ ただし、業績ボトムは在庫調整が継続する上期と想定。下期は在庫調整解消により、回復を見込む



- 前期比16%減収。アルミ製錬用カソードブロック及び黒鉛電極が大きく減速

- 損益も減収影響により、大幅減益。それでも営業利益率は20%超を確保

- 従来想定比でも大幅未達。特にカソードブロックの取引先在庫調整は予想以上に長期化

- 四半期別では、カソードブロックの売上が期を追って減少。4Qは在庫評価損もあり、利益率は低下

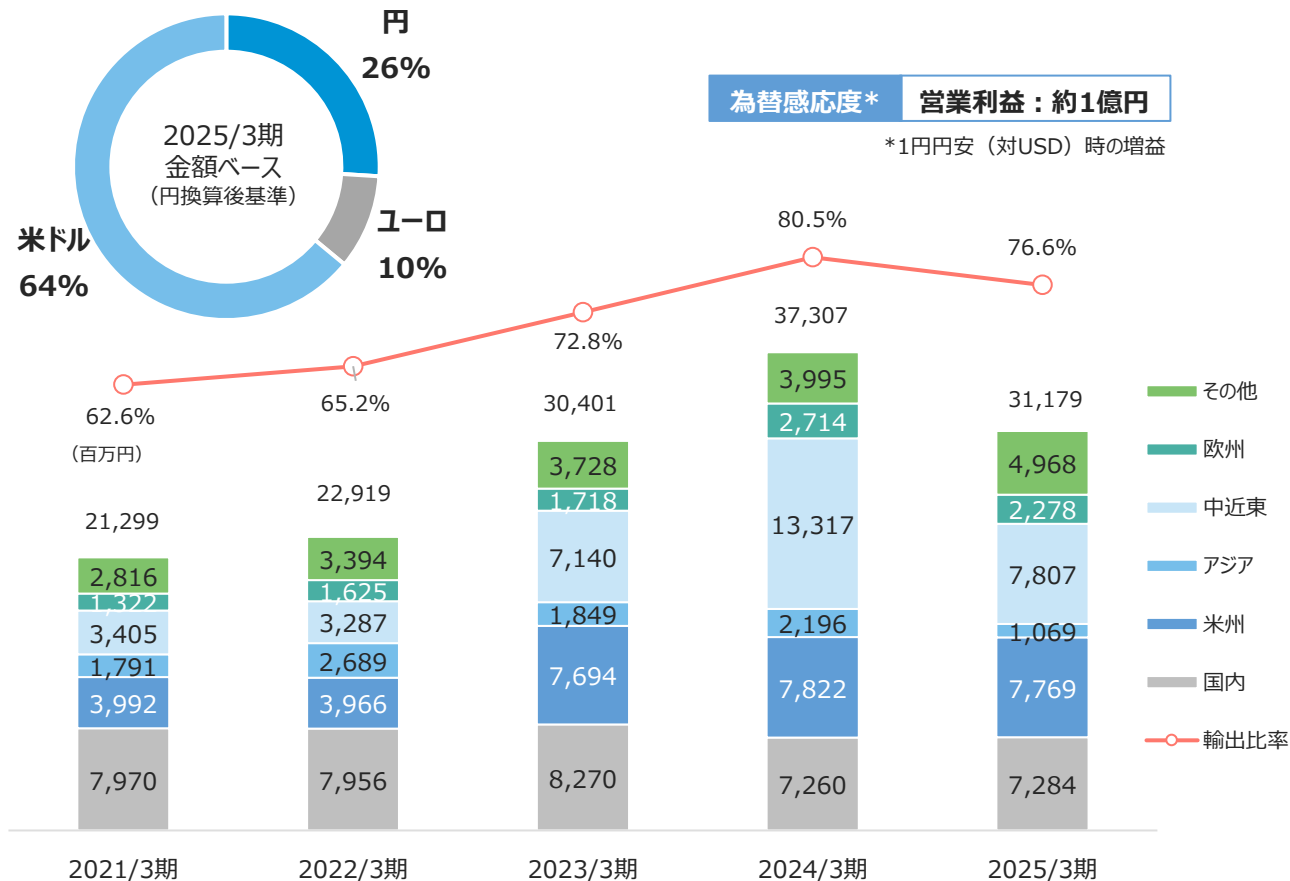
百万円	2024/3期	2025/3期		想定比 差異	前期比	
		従来想定	実績		増減額	増減率
売上高	37,307	36,900	31,179	▲ 5,720	▲ 6,128	▲ 16.4%
アルミニウム製錬用カソードブロック	26,619	25,355	22,002	▲ 3,352	▲ 4,617	▲ 17.3%
人造黒鉛電極	6,136	6,607	4,524	▲ 2,082	▲ 1,611	▲ 26.3%
特殊炭素製品	3,603	3,943	3,653	▲ 289	+50	+1.4%
ファインパウダー/その他炭素製品	948	995	998	+3	+50	+5.3%
営業利益	10,217	8,200	6,823	▲ 1,376	▲ 3,393	▲ 33.2%
営業利益率	27.4%	22.2%	21.9%	▲ 0.3pp	▲ 5.5pp	-
EBITDA*	11,595	9,712	8,127	▲ 1,585	▲ 3,467	▲ 29.9%
EBITDAマージン	31.1%	26.3%	26.1%	▲ 0.2pp	▲ 5.0pp	-
経常利益	11,555	9,000	7,716	▲ 1,283	▲ 3,839	▲ 33.2%
親会社株主帰属当期純利益	7,299	6,000	5,750	▲ 249	▲ 1,549	▲ 21.2%
輸出比率	80.5%	78.4%	76.6%	▲ 1.8pp	▲ 3.9pp	-
期中為替レート（円/USD）	145.34	145.00	152.76	+7.76	+7.42	+5.1%

*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

百万円	2024/3期				2025/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	8,157	8,633	9,418	11,097	8,400	7,983	7,359	7,435
アルミニウム製錬用カソードブロック	5,875	6,219	7,054	7,469	6,273	5,833	5,306	4,588
人造黒鉛電極	990	1,478	1,349	2,318	1,016	1,087	931	1,488
特殊炭素製品	1,047	728	766	1,061	828	818	863	1,142
ファインパウダー及びその他炭素製品	244	208	247	248	281	244	257	215
営業利益	2,477	2,390	2,905	2,443	2,377	2,201	1,719	525
営業利益率	30.4%	27.7%	30.8%	22.0%	28.3%	27.6%	23.4%	7.1%
EBITDA*	2,738	2,730	3,287	2,838	2,684	2,516	2,058	866
EBITDAマージン	33.6%	31.6%	34.9%	25.6%	32.0%	31.5%	28.0%	11.6%
経常利益	3,135	2,515	2,883	3,020	3,125	1,693	2,472	424
親会社株主帰属当期純利益	2,107	1,756	2,001	1,434	2,276	1,285	1,712	475
輸出比率	78.4%	84.1%	80.4%	79.4%	80.4%	77.9%	76.0%	71.7%
期中為替レート（円/USD）	138.28	144.91	148.02	148.91	156.32	149.83	152.94	151.65

*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

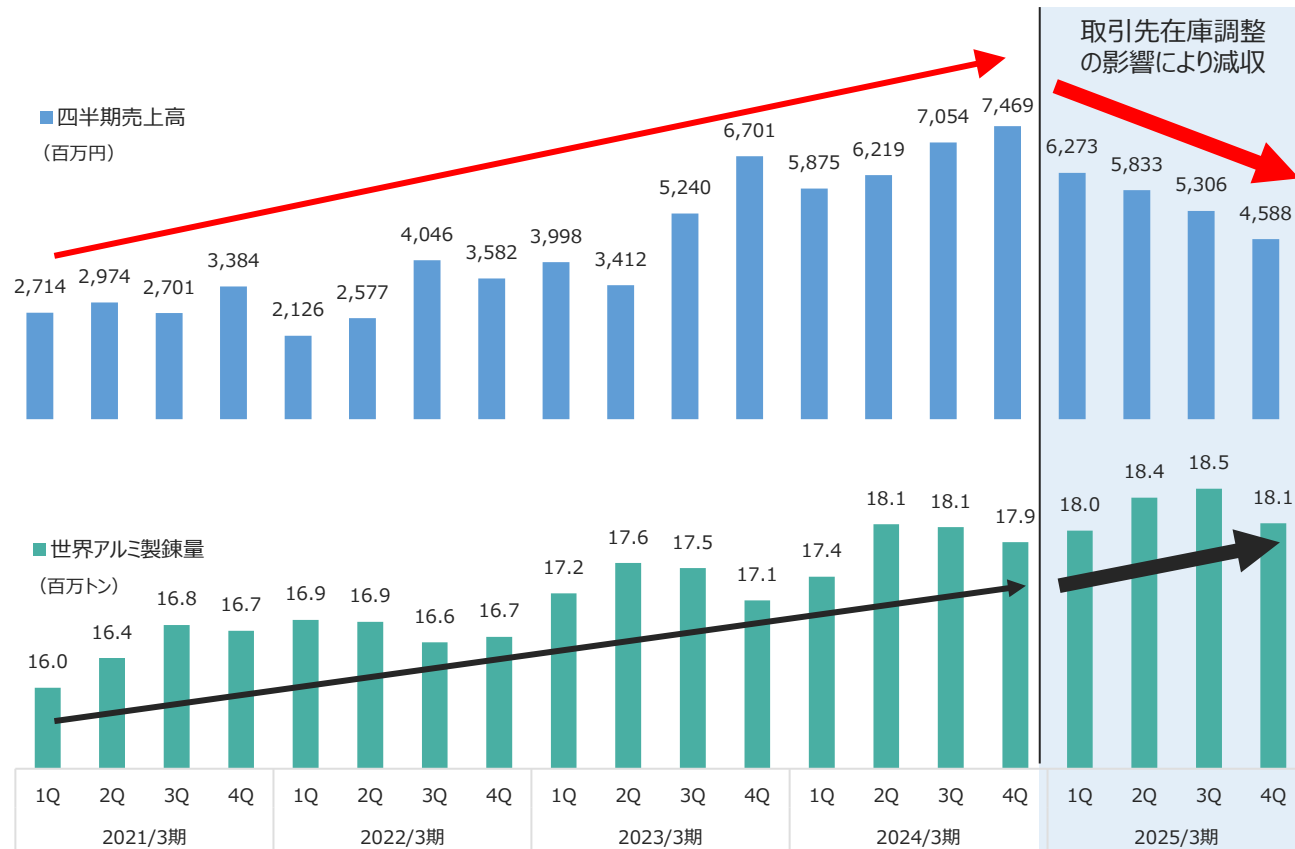
- 全社売上の8割弱が輸出であり、アルミニウム製錬用カソードブロックが大半
- 直近は売上は急拡大したが、2025/3期は、取引先の在庫調整により4期ぶりの減収
- 地域別では、直近は中近東、米州向けが拡大。一方、欧州、アジアは横ばい推移
- 通貨別では、全社売上の約3分の2が米ドル建て。円建取引も4分の1を占める



アルミニウム製錬用カソードブロックの売上トレンド

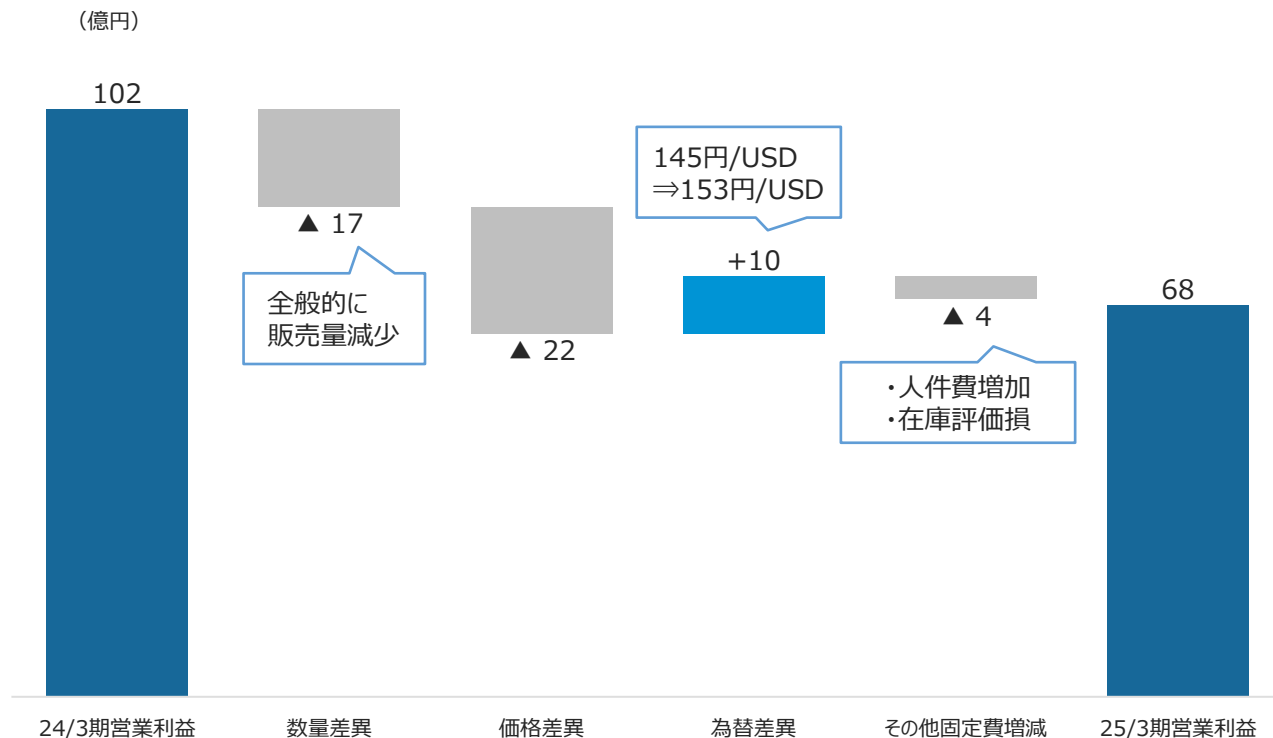
- 2021/3～2024/3期は世界のアルミ製錬量の増加とリンクしてカソードブロックの販売数量も増加。売上も拡大傾向で推移

- しかし、2025/3期に入ってトレンドに変化。世界のアルミ製錬量は引き続き増加トレンドながら、当社売上は取引先在庫調整の影響により減収



2025/3期営業利益 増減益分析

- 大幅営業減益の主因は販売数量・価格の不振。カソードブロックをはじめ、全般的に販売量が減少したうえ、価格面でも軟調に推移
- 一方、為替は収益の下支え要因として寄与。前期比8円/USDの円安となり、価格下落の影響を減殺
- なお、販売量の減少は取引先の在庫調整によるもの。アルミ製錬量は拡大が続いており、カソードブロックの需要も早晩回復に転じるものと認識

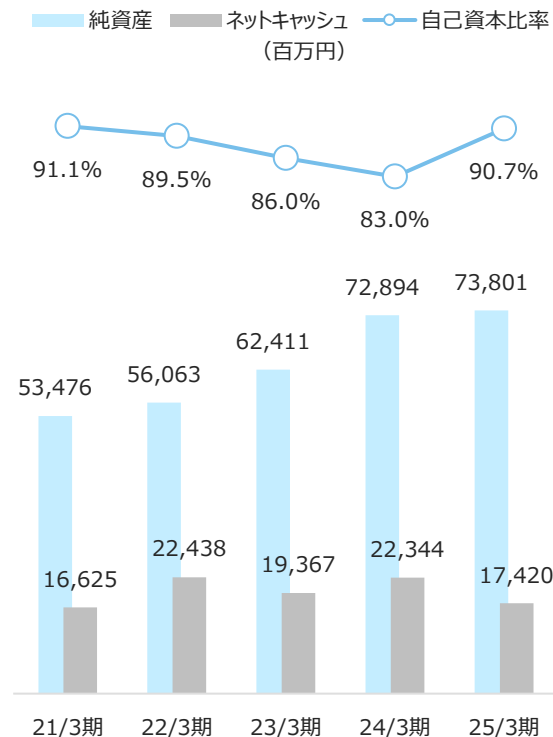


●総資産は7%縮小。主として
売上債権の回収進捗などが
影響。同時に、仕入債務も
減少

●設備更新工事の進捗により、
現預金の一部は有形固定
資産に振替。投資有価証券
は、政策保有株式売却の進
展及び時価下落による評価
額減少により、減少

●自己資本比率は90.7%。
期末のネットキャッシュは174
億円となり、財務健全性は
維持。今後、成長投資に振
り向ける検討を加速

百万円	2024/3期	2025/3期	増減額
流動資産	54,866	45,824	▲ 9,041
現預金	22,344	17,420	▲ 4,923
受取手形/売掛金	13,433	9,266	▲ 4,166
棚卸資産	18,708	17,853	▲ 854
固定資産	32,932	35,570	2,638
有形固定資産	12,405	17,623	5,217
投資有価証券	20,309	17,724	▲ 2,584
総資産	87,798	81,395	▲ 6,402
負債	14,903	7,593	▲ 7,310
買掛金	4,121	1,586	▲ 2,534
未払法人税等	2,414	370	▲ 2,043
純資産	72,894	73,801	907
利益剰余金	51,294	54,701	3,406
負債・純資産合計	87,798	81,395	▲ 6,402

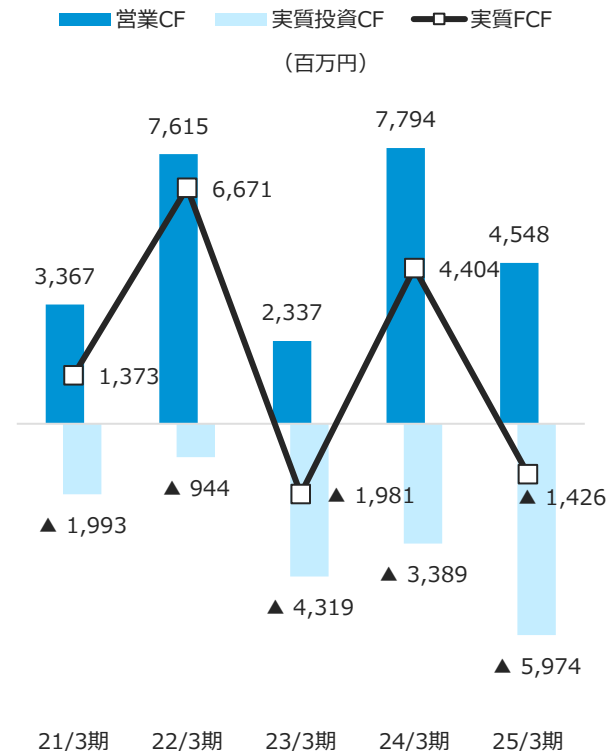


- 営業CFは、減少。
減益であり、運転資本は売上債権の回収進捗で負担軽減も、法人税支払や未払・未収消費税増減により、減少
- 実質投資CFは、積極的な設備投資によりキャッシュアウト増加。実質的なFCFはマイナスに
- 実質FCFのマイナスを受け、実質現金同等物期末残高は49億円の減少

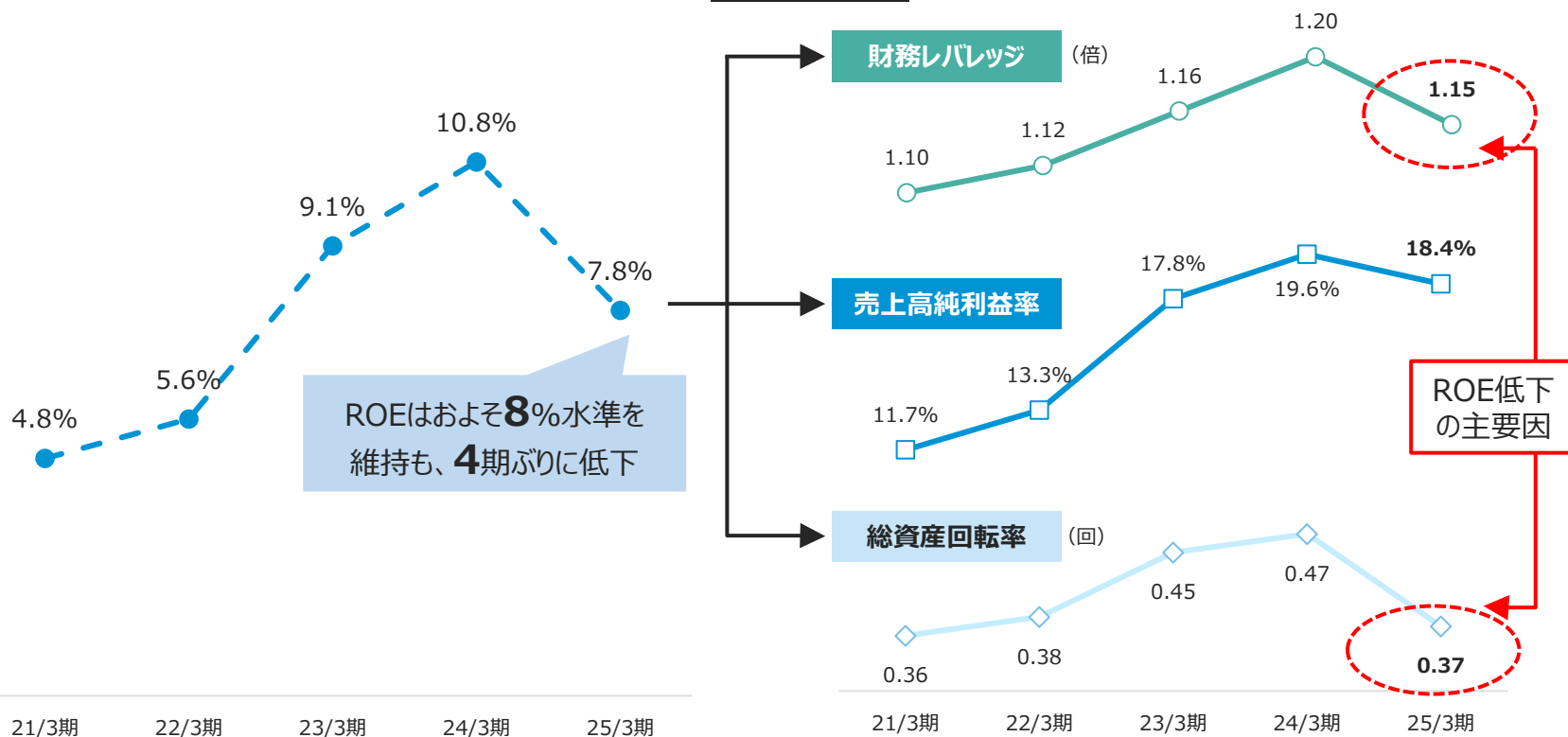
百万円	2024/3期	2025/3期	増減額
営業CF	7,794	4,548	▲ 3,245
税前当期純利益	10,386	8,170	▲ 2,216
減価償却費	1,377	1,304	▲ 73
運転資本増減	▲ 3,391	2,486	+5,877
法人税支払	▲ 2,859	▲ 4,142	▲ 1,283
未払・未収消費税増減	880	▲ 1,644	▲ 2,525
投資CF	▲ 16,029	▲ 5,404	+10,625
定期預金増減	▲ 12,640	570	+13,210
実質投資CF*	▲ 3,389	▲ 5,974	▲ 2,584
有形固定資産取得	▲ 3,248	▲ 6,549	▲ 3,301
投資有価証券売却	116	635	+519
実質FCF**	4,404	▲ 1,426	▲ 5,830
財務CF	▲ 1,393	▲ 2,989	▲ 1,596
配当金支払	▲ 1,381	▲ 2,342	▲ 961
現金同等物期中増減	▲ 9,662	▲ 4,353	+5,309
実質現金同等物期中増減*	2,977	▲ 4,923	▲ 7,900

*実質：定期預金増減を除く

**実質FCF = 営業CF + 投資CF (定期預金増減を除く)



ROE = 財務レバレッジ × 売上高純利益率 × 総資産回転率
3要素、総じて悪化



2026/3期 決算見通し

03.

●6%減収、43%営業減益を想定。営業利益率は13%と4期ぶりの低水準を見込む。為替前提は140円/USD

●主力のカソードブロックは、取引先の在庫調整はしばらく継続を織り込む

●ただし、半期別にはトレンドが変化。下期は在庫調整解消を見込み、対上期で大幅増収増益転換を想定

●売上高に占める米国向けの輸出は多くないため、米国関税影響は軽微だと想定。現時点では間接的影響を織り込まず

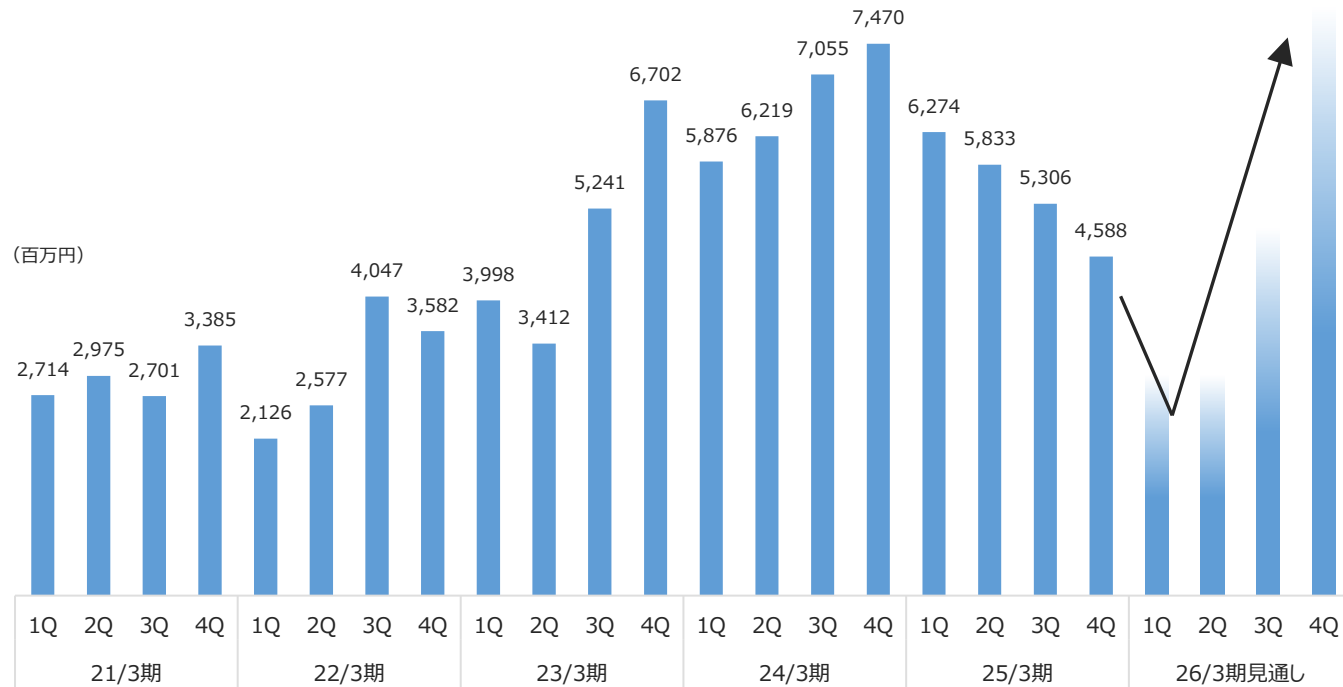
百万円	2025/3期	2026/3期見通し	増減額	増減率
売上高	31,179	29,200	▲ 1,979	▲ 6.3%
アルミニウム製錬用カソードブロック	22,002	19,100	▲ 2,902	▲ 13.2%
人造黒鉛電極	4,524	5,500	+976	+21.6%
特殊炭素製品	3,653	3,700	+47	+1.3%
ファインパウダー/その他炭素製品	998	900	▲ 98	▲ 9.8%
営業利益	6,823	3,900	▲ 2,923	▲ 42.8%
営業利益率	21.9%	13.4%	▲ 8.5pp	-
EBITDA*	8,127	5,840	▲ 2,287	▲ 28.1%
EBITDAマージン	26.1%	20.0%	▲ 6.1pp	-
経常利益	7,716	5,000	▲ 2,716	▲ 35.2%
親会社株主帰属当期純利益	5,750	3,300	▲ 2,450	▲ 42.6%
輸出比率	76.6%	74.1%	▲ 2.5pp	-
期中為替レート（円/USD）	152.76	140.00	▲ 12.76	▲ 8.4%

*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

百万円	2024/3期		2025/3期		2026/3期見通し	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	16,791	20,516	16,384	14,794	11,100	18,100
アルミニウム製錬用カソードブロック	12,094	14,524	12,107	9,895	6,400	12,700
人造黒鉛電極	2,468	3,667	2,104	2,420	2,600	2,900
特殊炭素製品	1,775	1,828	1,646	2,006	1,700	2,000
ファインパウダー及びその他炭素製品	452	495	525	472	400	500
営業利益	4,868	5,348	4,578	2,244	1,000	2,900
営業利益率	29.0%	26.1%	27.9%	15.2%	9.0%	16.0%
EBITDA	5,468	6,126	5,201	2,925	1,700	4,140
EBITDAマージン	32.6%	29.9%	31.7%	19.8%	15.5%	22.9%
経常利益	5,651	5,904	4,819	2,896	1,500	3,500
親会社株主帰属当期純利益	3,863	3,435	3,561	2,188	1,000	2,300
輸出比率	81.3%	79.9%	79.2%	73.8%	67.6%	78.2%
期中為替レート (円/USD)	141.73	148.50	153.14	152.31	140.00	140.00

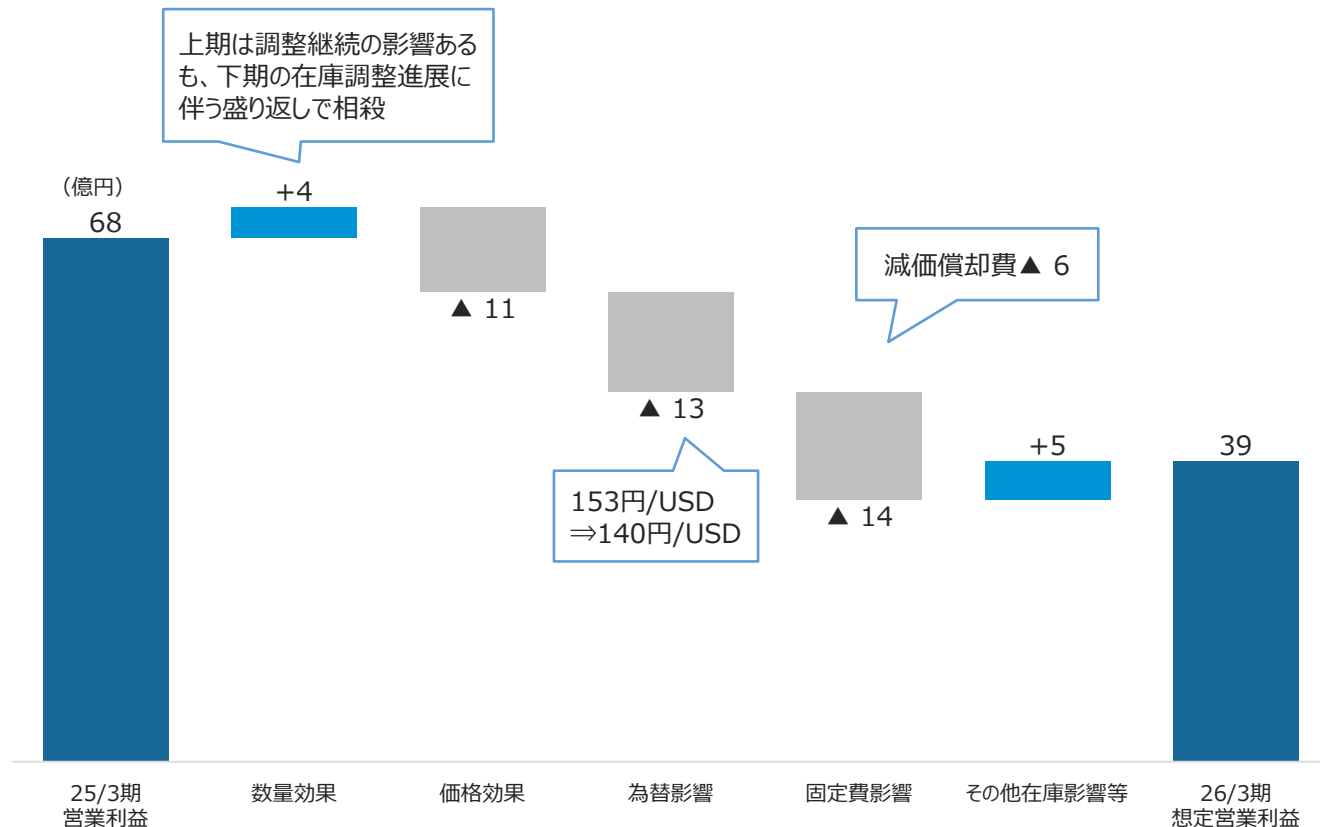
アルミニウム製錬用カソードブロック売上見通し

- 主力のアルミニウム製錬用カソードブロックの売上は、上期と下期で大きく転換を想定
- 上期は取引先在庫調整の継続リスクを想定。また、通常の在庫調整に加え、世界景気の先行不透明感台頭により、取引先も慎重な姿勢を採る公算大
- 一方、下期は在庫調整解消へ。世界のアルミ製錬量は増加が続いており、在庫調整も長期化には限界がある。上期まで調整が継続する反動もあり、急回復を予想

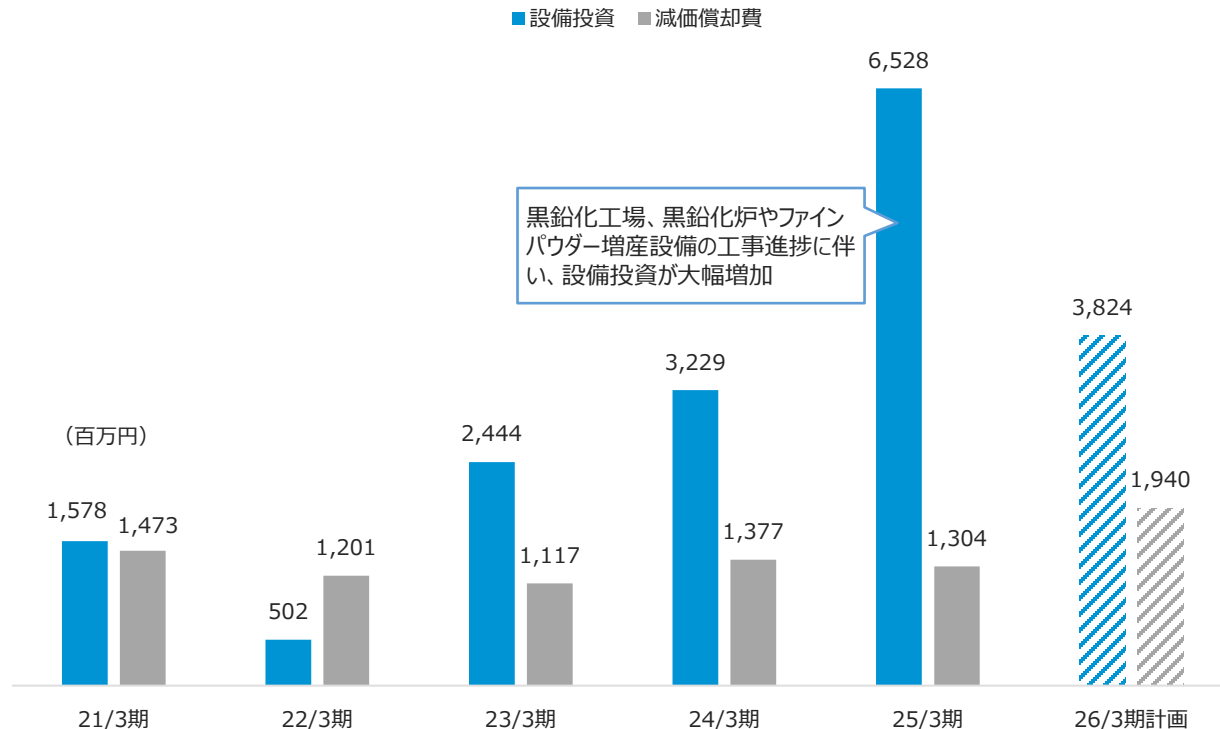


2026/3期営業利益見通し 想定増減益分析

- 下期回復を見込むも、通期では価格低下、円高進行、投資拡大による償却費用増などが影響。大幅減益を見込む
- なお、数量面では若干の増益寄与を想定。上期は在庫調整の影響あるも、下期の回復効果で相殺

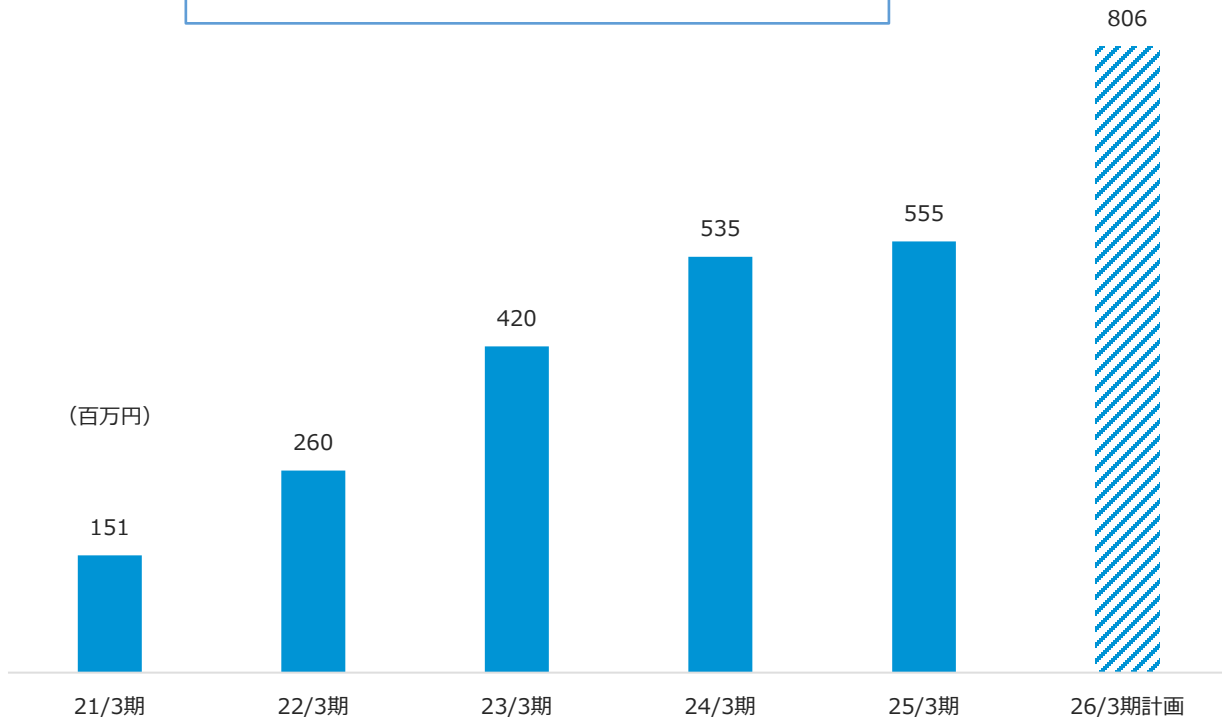


- 25/3期では、黒鉛化工場、黒鉛化炉やファインパウダー増産設備の工事進捗に伴い、設備投資額は65億円に大幅増加
- 26/3期計画では、下期より黒鉛化工場、黒鉛化炉やファインパウダー増産設備の本稼働が開始される予定であり、減価償却負担増加見込み



- 新規開発品やCO₂資源化等において産官学の共同研究に取り組んでおり、研究開発費は増加傾向
- 新たな収益源のため、新製品開発への支出増加を計画

カーボンニュートラルに貢献する新製品開発を加速



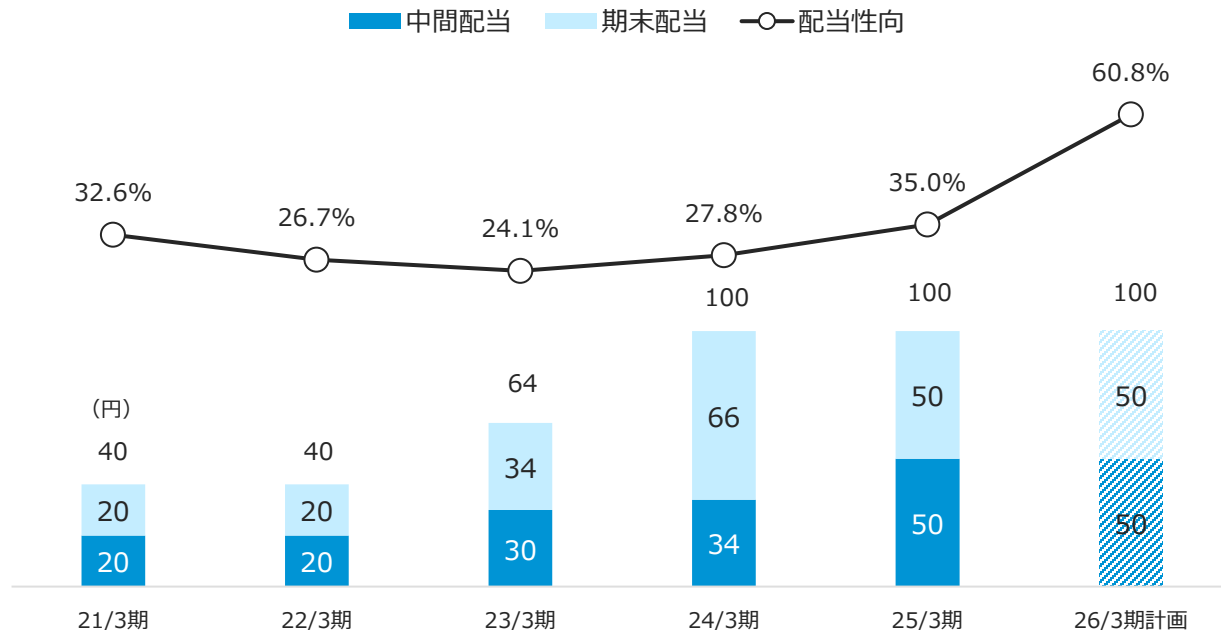
配当方針

収益性の向上と財務の健全性を図りつつ、連結配当性向**30%**を目安に永続的かつ安定的に実施

自己株式取得方針

業績の動向、資本の状況、市場環境等を考慮の上、機動的に実施

- 25/3期は、予想通り年間100円配当を実施。期中に、6億円の自己株式取得済み
- 26/3期は、配当方針に則り、25/3期と同額の年間100円配当を計画



(注) 1株当たり配当金：2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。
比較のために、2021/3期期首に株式分割を行ったと仮定して記載

事業環境の変化と経営課題

04.

サステナブル2026持続的成長へ



計画策定後の事業環境変化

アルミニウム製錬用 カソードブロック	✓ 新規製錬所の建設プロジェクトの延期 ✓ アメリカ関税政策の直接影響ないが、間接影響不透明
人造黒鉛電極	✓ 粗鋼生産量低水準 ✓ 中印メーカーの安価電極流入による市況悪化 ✓ アンチダンピング措置発動による中国品輸入抑制は好材料
特殊炭素製品	✓ 非鉄金属向けの回復鈍い
ファインパウダー	✓ 自動車、家電向けの回復鈍い
為替（円/USD）	✓ 足下は140円/USD。25/3期以降に円高基調に転換

経営課題

- 販売量減少に伴う固定費負担の軽減
- 現行製品以外の新製品の開発
- 厳しい環境下でも選ばれる高品質製品の提供
- M&Aを含めた戦略投資の実現

- 世界アルミ需要の安定した伸びにより、更新需要と、新規アルミ製錬所の需要が見込まれる

- 新規アルミ製錬所では、従来の非黒鉛化品からランニングコストやカーボンニュートラルへのメリットが大きい黒鉛化品へのシフトが見込まれる。そのため、当社の黒鉛化カソードブロックの売上は拡大を予想

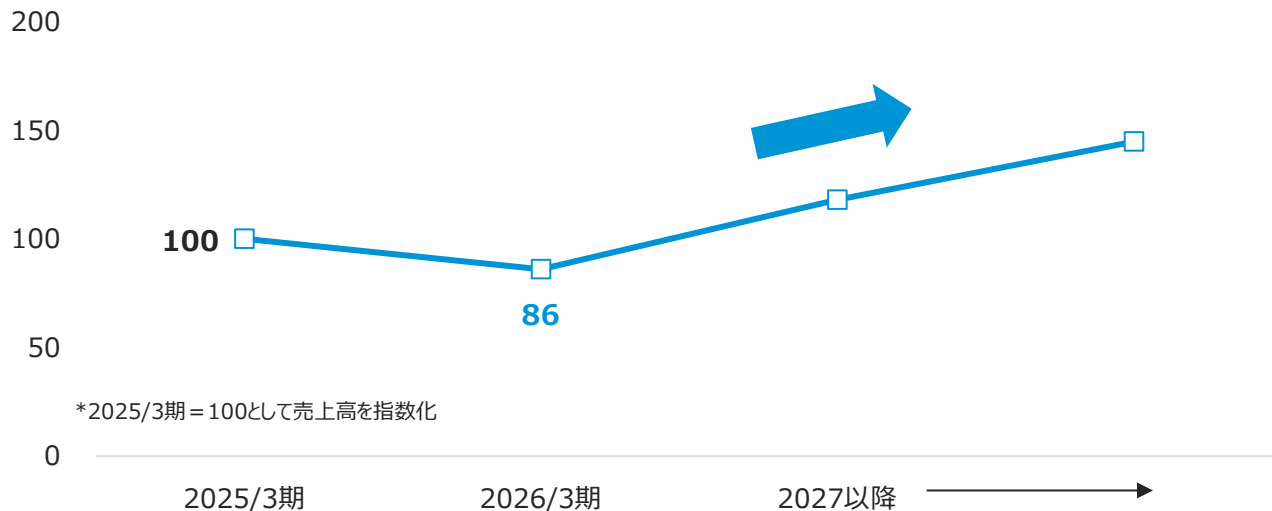
プラス材料

マイナス材料

- ・コスト面等からの非黒鉛から黒鉛への世界的な動き
- ・アルミ需要の安定的な拡大
- ・中国企業の参入による製品のコモディティ化
- ・円高による競争力の低下懸念

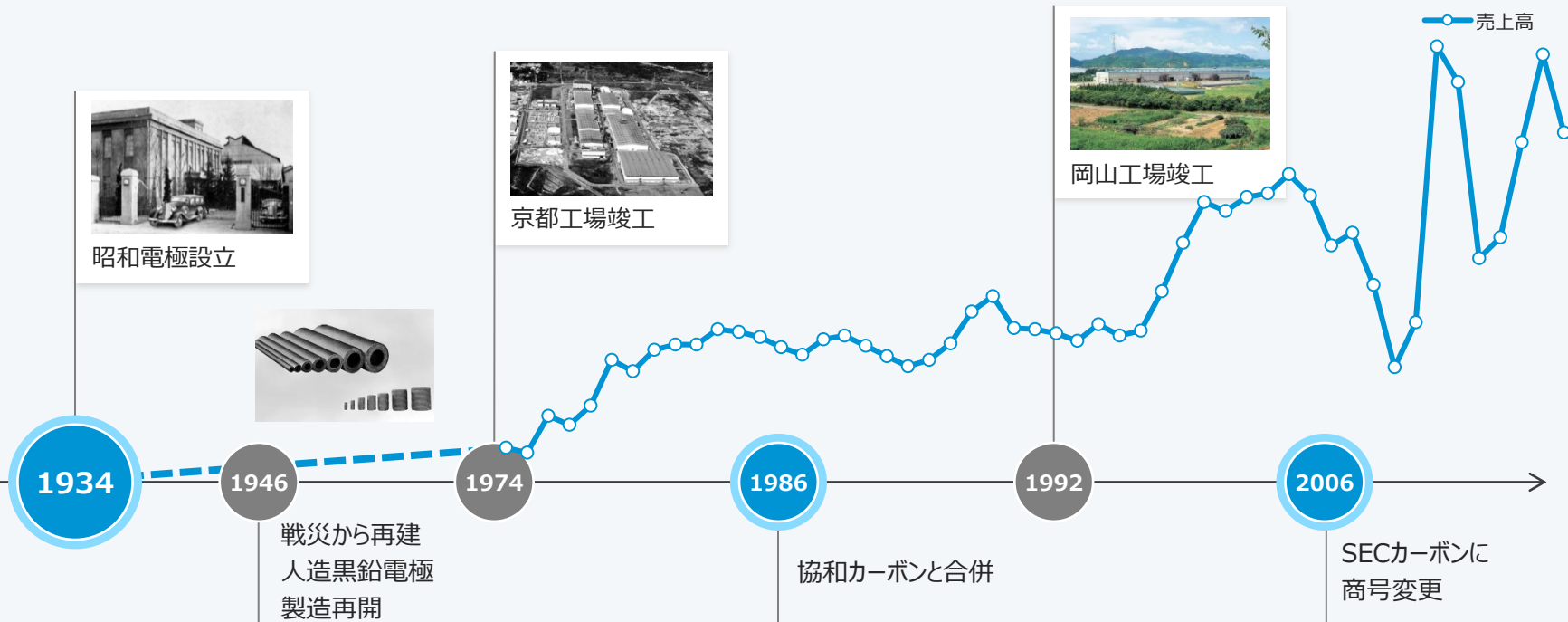
黒鉛化カソードブロックへの転換で
3.4%の電力使用量削減

アルミ製錬用カソードブロックの売上目標



APPENDIX

05.



項目	単位	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
設備投資	百万円	1,578	502	2,444	3,229	6,528
減価償却費	百万円	1,473	1,201	1,117	1,377	1,304
研究開発費	百万円	151	260	420	535	555
金融収支	百万円	225	262	526	725	960
売上高	百万円	21,299	22,919	30,401	37,307	31,179
海外売上比率	%	62.6	65.2	72.8	80.5	76.6
期中為替レート	円/USD	106.25	112.89	134.84	145.34	152.76
営業利益	百万円	3,081	3,222	6,490	10,217	6,823
EBITDA	百万円	4,554	4,423	7,607	11,595	8,127
親会社株主帰属当期純利益	百万円	2,496	3,039	5,402	7,299	5,750
ROE	%	4.8	5.6	9.1	10.8	7.8
営業CF	百万円	3,367	7,615	2,337	7,794	4,548
実質投資CF	百万円	▲ 1,993	▲ 944	▲ 4,319	▲ 3,389	▲ 5,974
実質FCF	百万円	1,373	6,671	▲ 1,981	4,404	▲ 1,426
財務CF	百万円	▲1,032	▲826	▲1,027	▲1,393	▲ 2,989
現金及び現金同等物	百万円	16,385	22,188	19,087	9,424	5,070
1株当たり年間配当金	円/株	40	40	64	100	100
配当性向	%	32.6	26.7	24.1	27.8	35.0

(注) 1株当たり配当金：2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。比較のために、2021/3期期首に株式分割を行ったと仮定して記載

ご留意点

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問い合わせ先
SECカーボン株式会社 総務広報部
06-6491-8600（代表）
<https://sec-carbon.com/contact/>